

◆懇話会で出た意見(要素別)

要素	内容
情報・啓発	<p>◆地域にある大学の学生について、共立大の地域創造学科や北九大の地域創生学群に若い人たちがたくさんいる。地域貢献したいという若い人たちをどのように掘んで、取り込んでいくか、つないでいくかが課題。</p> <p>◆ボランティア活動を始め際の情報の入手方法がない</p> <p>◆企業等が小学校に出前授業をしているが、授業内容で介護・福祉を選ぶ小学校がほとんどない。今後の福祉を考えるのであれば、教育委員会からも積極的に各小学校の校長先生に福祉の授業をプッシュしてほしい。</p> <p>◆学生と関わる中で、ボランティア活動をしたくても活動する場が見つからないという声を聴くことが多い。</p> <p>◆地域で活動している高齢者は多いが、自分のような3, 40代がない。その年齢層がハブとなって活動することが大事だと思う。</p> <p>◆そもそも福祉に関することは、もともと興味がある人、困っている当事者や家族は情報を得ようと調べるが、困りごとがない場合は興味が全くないという人が多いと思う。そういう興味のない人、無関心な人にどうアピールするか、SNSの活用等も含めて考えていければ。</p>
障害者	<p>◆自治会に未加入、近隣との付き合いがない障害者は、社協が支援をしてくれてはいるが、地域の中で後回しになっている。</p> <p>◆そもそも地域に孤立している障害者がいるという情報を誰も持っていない。障害者の団体に入っている障害者も一握りしかいないので、掘り起こしが求められていると思う。</p> <p>◆民生委員活動をする中で、障害者の情報が入手できず見守りが難しい。自治会や校区社協と連携して、見守りや地域参加の環境づくりをする必要がある。</p>
子ども子育て	<p>◆若い人たちは子育ての中で周囲の助けを必要としているので、共助重視しているのではないかと。高齢者も若い人自身も参加して、子育てのところに共助のしくみを作る必要があると思う。</p> <p>◆子育て支援制度がより保育制度を拡充するものになってから、家庭で子育てをする方が減っていて、親子ふれあいルームの利用年齢も、2～3歳から0～1歳に下がっている。つまり、子どもが小さいときに、支えあいながら子育てするという期間がとても短くなっているため、共助を体験する機会がない。短い期間ながらも、支えあうなにかを届けていけないといけないと思う。</p> <p>◆小学生の時のつながりが、中学生になっても深く残るので、小学生の時代に学校と保護者と地域がより一層つながりを深くすることが、成長する過程の中で非常に重要だと思う。小学校区単位の施策を検討してほしい。</p>

<p>マッチング つながり</p>	<p>◆学生はスマホやパソコンで情報を得ている。支援を受けたい側も公に相談しにくいところがあるので、ICTを活用したマッチングの仕組みづくりが大切だと思う。</p> <p>◆学生にも貧困状態の人が多く、アルバイト等生活するのに忙しい中で、彼らにボランティア活動をやってくれと言っても難しい。まずは、ボランティア活動ができる環境を作る、例えば資金提供者とのマッチングについて、クラウドファンディングのように、資金提供をしてもらえるような工夫を考えることも必要。</p> <p>◆認知症の方にも性別、職歴等々いろいろな方がいるので、サービス利用についても一括りにするのではなくマッチングが必要。</p> <p>◆親が障害を持った子の面倒を見続けて、共に高齢化を迎える家族が多い。高齢、障害、貧困の問題等を複合的に抱え、誰も助けてくれない状態になっているので、マッチングして地域につなぐなど、制度のはざまにいる人達を何とか助けられる制度を作っていきたい</p> <p>◆実際に集まるのは「新しい生活様式」の中では難しいが、学生が得意のSNS等を活用するなど、どんな形であれ、学生、地域、企業等のつながりの構築をすることが重要になる。</p> <p>◆自分でSOSを出せない人、頼りにくい悩みを抱えている人を、誰かが小さなサインに気づいて、発見して、いかに適切な機関や専門職、地域につないでくかが大切だと思う。</p> <p>◆また、困りごとや問題が解決した後も、その後続いてく本人と家族の日常を重層的に支えていけるような仕組みや仕掛けを、計画の中で考えたい。</p>
<p>災害</p>	<p>◆災害が起きた時に、高齢者や障害者が避難できない現状がある。自治会には加入しなくても、災害等なにか困ったことが起きた時、個別にお願いすれば協力するという人は地域にいると思う。そういう工夫も必要ではないか。</p> <p>◆自治会が災害の際の避難計画を作って訓練しているということだが、自治会でも加入者が少ないところは、計画通りに回るかというのは疑問。</p> <p>◆災害時の避難対策について、福祉の観点からなにかできないか、今回の計画の中に織り込んでほしい。</p>
<p>コロナ</p>	<p>◆今までは人と人がつながって、直接話をして、寄り添ってという手法でやってきたが、コロナの影響で変わらざるを得ない。本計画では重点的にその点を検討していただきたい。</p> <p>◆問題を抱えた人で、コロナ以前に共助の環境に入られなかった方が、今非常に困っている。その人たちのことも考えていかなければいけない。</p> <p>◆コロナの状態で訪問等ができない中、今はIT等も進んでいるので、違う方法でのケアも考える必要がある。</p> <p>◆コロナの影響で訪問活動がしづらく、工夫して見守りを続けている。高齢者が引きこもって孤立状態にならないようにしていきたい。</p>

自治会	<ul style="list-style-type: none">◆市民センターが活用できていない地域がある。サロン等の居場所づくりや、ボランティア活動の拠点としての役割など、義務づけてでも活用すべきでは。◆市政だよりの全戸配布等は自治会が行っているのに、未加入者には情報が届かない。役員等の役割を免除するなどの方法も考えて、全員が自治会に加入して、助け合う社会になれば。◆自治会の負担が増えている一方、高齢化もあり自治会加入者が少ない。何か変わったことをやらないと、自治会加入者を増やすのは難しいと思う。
-----	--